

## 練習

以下の文章の内容を整理し、パラグラフライティングで書き直してみましょう。

### 著作権保護期間延長に断固反対！

日本の著作権法では、著作権（映画以外）の保護期間を原則として「著作者の死後 50 年」までと定めている。これに対して、保護期間を欧米並みの死後 70 年までに延ばすべきであるという“著作権保護期間延長派”が文化庁に要望書を提出した。

私は一介の物書き（著作者）だが、著作権の保護期間延長には反対である。なぜなら、既に死後 50 年後まで守られている権利をさらに延ばしても、創造意欲は高まらないからである。

そもそも保護期間を延長して誰が得をするのか。著作権者である本人は既にこの世にいないため、何の利益も得ることができない。得をするのは一部の遺族とその関係者のみであり、社会全体にとってメリットは少ない。

また、何を守るためなのかという点が見過ごされている。著作権が守るべきものはその著作者の権利と適切な社会全体の“創造のサイクル”（創造→保護→活用→…）である。保護期間延長はこの“創造のサイクル”を阻害する。古い作品（文学、音楽など）は新しい創造の源泉であり、誰もが著作者であると共に利用者なのだから、延長をくり返して独占が長期化すれば創造が害される。

結局、著作権には社会全体の利益という観点が重要なのである。（498 字）